

車

寺田寅彦

青空文庫

私が九つの秋であった、父上が役を御やめになつて家族一同郷里の田舎へ引移る事になつた。勿論もちろんその頃はまだ東海道鉄道は全通しておらず、どうしても横浜から神戸まで船に乗らねばならぬ。が、困つた事には父上の外は揃いも揃うた船嫌いで海を見るともう頭痛がすると云う塩梅あんばいで。何も急せく旅でもなしいつそ人力じんりきで五十三次も面白かろうと、トウトウそれと極きまつてからかれこれ一月の果はてを車の上、両親の膝の上にかわるがわる載せられて面白いやら可笑おかしいやらの旅をした事がある。惜しい事には歳が歳であつたから見もし聞きもした場所も事実も、二昔も程遠き今日からふりかえつて考えてみると夢のような取り止めも付かぬ切きれぎれ々々が、かすかな記憶の糸につながれて、廻り燈籠のように出て来るばかりで。こんな風であるから、これも自分には覚えておらぬが横浜から雇つた車夫の中に饅頭形の檜ひのき笠がさを冠かぶつたのがあつたそうだ。仕合せに晴天が続いて毎日よく照りつける秋の日のまだなかなか暑かつたであろう。斜めに来る光がこの饅頭笠をかぶつた車夫の影法師を乾き切つた地面の白い上へうつして、それが左右へゆれながら飛んで行くのが訳もなく子供心に面白かつたと見える。自分はこの車夫に椎しい茸たけと云う名をつけた。それは影法師の形がいくらか似ていると思つたからである。街道に沿うた松並木の影の中をこ

の椎茸がニヨキ／＼と飛んで行くのがドンナに可笑しかったろう。朝はこの椎茸が恐ろしく長くて、露にしめった道傍の草の上を大蛇のようにうねって行く。どうかするとこの影が小川へ飛込んで見えなくなつたと思うと、不意に向うの岸の野菊の中から頭を出す。出すかと思うと一飛びに土堤を飛越えてまた芒すすきの上をチラリ／＼して行く。なお面白いのは日が高くなるにつれて椎茸が次第に縮んで、おしまいにはもう椎茸とも何とも分らぬものになつて石ころ道の上を飛び飛び転がって行く。少し厭あき気味になると父上に謡うたいをうたえの話^ををせよのとねだつているうちに日が西に傾く。しかし今度は朝のような工合に行かぬ。大体が西を向いて行くのであるから、椎茸は車の右脇へ頭を出したり左へ出したり。どうかすると自分の脚の上へ来るのでキャツ／＼と大騒さわぎをする。こんな坊チャマを膝へ乗せた父上も大概な事ではなかつたらしいが、椎茸もトンダ目に会つたものだ。この椎茸少々よろ宜しからぬ事があつて途中から免職になつたのはよかつたが、その後任の爺さんがドーモ椎茸でなかつたので坊チャン一通りの不平でない。これにはさすがの両親も持て余したと云う。

(明治三十三年九月『ホトトギス』)

青空文庫情報

底本：「寺田寅彦全集 第一巻」岩波書店

1996（平成8）年12月5日発行

底本の親本：「寺田寅彦全集 第一巻」岩波書店

1985（昭和60）年7月5日第3刷発行

初出：「ホトトギス 第三巻第十二号」

1900（明治33）年9月10日発行

※初出時の署名は「牛頓」です。

入力：Nana ohbe

校正：川向直樹

2004年1月19日作成

2016年2月25日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

車

寺田寅彦

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>